

C
I
S
T
O
R
Y
C
O
M
P
A
N
Y



令和7年度

西東京市戦後 80 周年 平和大使派遣事業

報告集



はじめに

このたびは、「戦後80周年平和大使派遣事業の報告集をご覧いただき、ありがとうございます。

本年8月、12名の中高生が「平和大使」として広島を訪れました。広島平和記念式典への参列、被災した小学校の視察、現地の同世代との交流を通して、平和の尊さを自らの目で見て、心で感じてくれたことだと思います。

広島平和記念式典では、小学校6年生の児童が「たとえ一つの声でも、思いを込めて伝えれば変化をもたらすことができる」と力強く宣言しており、その言葉に心を動かされた大使も多くいました。

若い世代のまっすぐな声が、社会を変える力になると信じています。この報告集を通じて、平和大使たちの学びや思いに触れ、平和についてともに考える時間を持っていただければ幸いです。

西東京市長 池澤 隆史

目次

事業概要	01
平和大使紹介	02
事前学習会	03
広島派遣／平和大使感想文	04
平和大使発表会	18
平和大使保護者の声	28





事業概要

目的

戦後 80 周年平和大使派遣事業とは？



戦後 80 周年を迎える今、戦争を経験している人が減少していくにつれ、戦争の悲惨さや平和の大切さについて考える機会が失われつつあります。本事業では、このことを未来へつなぐ取組として、事前学習を通じて戦争や平和に関する知識を学び、広島での体験や全国から集まった若者たちとの交流を通じて、戦争や平和の重要性を自分自身の問題として捉えその学びや思いを広く発信することを目的として実施しました。

また、若い世代が主体的に企画段階から参加し、若者スタッフとともに平和推進の取組を進めることで、新しい視点から平和の尊さを伝える活動を展開しました。この体験を通じて感じたことや学んだことを同じ世代や市民のみなさまと分かち合い、みんなで平和を未来へ引き継いでいくことを目指しました。

スケジュール

区分	日時	内容
平和大使 募集開始	5/1 木～5/31 土	中高生の応募者 74 名の中から抽選で 12 名を選出
事前学習会 第 1 回	6/29 日 14:00～16:00	自己紹介、ワークショップ
事前学習会 第 2 回	7/13 日 14:00～16:30	座学、ディスカッション、出発式
直前ガイダンス	7/28 月 18:00～19:00	広島派遣に向けたガイダンス
広島派遣	8/5 火～7 木	広島平和記念式典参列 広島平和学習プログラム参加 など
非核・平和パネル展	8/15 金	平和大使トークセッション
事後学習会 第 1 回	8/29 金 18:00～20:00	広島派遣の振り返り、発表会準備
事後学習会 第 2 回	9/4 木 18:00～20:00	発表会準備
事後学習会 第 3 回	9/9 火 18:00～20:00	発表会準備
発表会	9/14 日 13:00～	グループごとに平和映画祭で発表 ※タクトホームこもれび GRAFARE ホール
西東京市民まつり	11/8 土	平和大使活動報告（展示）など



平和大使紹介

A グループ

B グループ

C グループ

PROFILE

FILE.01

名前：伊藤 開心
学年：中学2年生



Q. どんなときに「平和」だと感じる？

テレビや新聞で戦争に関するニュースを見たとき

PROFILE

FILE.02

名前：松崎 謙信
学年：中学3年生



Q. どんなときに「平和」だと感じる？

好きなことをしているとき

PROFILE

FILE.03

名前：玉井 花音
学年：高校2年生



Q. どんなときに「平和」だと感じる？

ゲームをしているとき

PROFILE

FILE.04

名前：古賀 海寧
学年：中学2年生



Q. どんなときに「平和」だと感じる？

寝ているとき

PROFILE

FILE.05

名前：蓑 幸太郎
学年：高校2年生



Q. どんなときに「平和」だと感じる？

皆が笑っているとき

PROFILE

FILE.06

名前：四方 和華
学年：中学3年生



Q. どんなときに「平和」だと感じる？

おいしいご飯を食べているとき

PROFILE

FILE.07

名前：川島 美空
学年：中学2年生



Q. どんなときに「平和」だと感じる？

命が「重い」と思っているとき

PROFILE

FILE.08

名前：ヘイン ティッ アウン
学年：中学1年生



Q. どんなときに「平和」だと感じる？

友達と話しているとき

PROFILE

FILE.09

名前：小川 真葉
学年：高校1年生



PROFILE

FILE.09

名前：小川 真葉
学年：高校1年生

Q. どんなときに「平和」だと感じる？

食事をしているとき

PROFILE

FILE.10

名前：長野 百佳
学年：中学2年生



PROFILE

FILE.11

名前：裏田 昂大
学年：中学1年生



Q. どんなときに「平和」だと感じる？

学校で勉強しているとき

若者スタッフ紹介

▼事前学習会直前打ち合わせ



Check!

平和大使の活動には、大学生を中心とした「未来に平和をつなぐプロジェクト」のメンバーも若者スタッフとして参加しました。平和大使を同世代の立場から事前学習会から広島派遣、発表会までサポートしてきました。



若者スタッフが運営するInstagram「みらプロ@西東京」では平和大使の活動が見られます。



▲若者スタッフ



事前学習会

平和大使として広島を訪れる前に、平和大使は全2回の事前学習会を実施しました。

平和大使は、ここで初めての顔合わせになります。初対面ばかりで最初は緊張している様子でしたが、学習会を通じて徐々に緊張がほどけていく様子が見られました。

事前学習会①

日時：6月29日(日) 14:00~16:00

場所：西東京市役所田無第二庁舎4階

第1回事前学習会では、広島の原爆被害について学び、イメージワークを通じて「1945年8月6日の広島にいたら？」について考えました。また、西東京市の空襲や模擬原子爆弾（パンプキン爆弾）の被害を知り、戦争が身近な地域にも影響を与えていたことを学びました。

平和大使のみなさんからは「戦争の残酷さを改めて感じた」「西東京市の被害に驚いた」などの声が寄せられました。



事前学習会②

日時：7月13日(日) 14:00~16:30

場所：西東京市役所田無第二庁舎4階

第2回事前学習会では、広島の原爆被害についてさらに深く学習しました。特に1930年代の古地図を用いて、軍都としての広島が人々の生活の場でもあったことを知り、原爆投下の背景への理解を深めました。また、戦後から現代の広島の歩みや核廃絶を目指す人々の活動を学び、平和の大切さを再認識しました。

平和大使のみなさんからは「学び続ける意味を初めて考えた」「今の環境が当たり前でないと気づいた」などの声があがり、日々の生活や行動を見直すきっかけになりました。



講師 一般社団法人かたわら 法人プロフィール

かたわらは、核兵器廃絶を目指す一般社団法人(NGO)です。ユース世代の理事・学生のメンバー5人(2025年5月時点)で運営しており、G7、SDGs(持続可能な開発目標)、国連「未来サミット」などで被爆者や市民の声を世界に伝え、核兵器廃絶の必要性を訴えてきました。被爆者の記憶を世界の記憶にすることを目指しています。

法人名の由来は、「核のない世界を目指すあなたのかたわらに」。

1人1人の声が広がることで、社会をより良くできると信じています。





広島派遣／平和大使感想文

1日目

8月5日 火

day 1

08:30 東京駅発



12:27 広島駅着



13:30 原爆ドーム・原爆の子の像見学
爆心地見学



voice
長野
教科書で見て感じるものと実際に見て感じるものは全然違うと感じました。目で見たよりどんな悲惨な街になっていたかがわかりました。

voice
小川
このような悲惨な出来事を起こさないように原爆のことをより多くの人に知ってもらうことが大切だと思いました。



14:30 広島平和記念資料館見学



17:30 夕食

20:25 ホテル到着

20:30 グループ学習



原爆で生き残ったアオギリの木。その種や芽から育てたアオギリを二世として、全国に苗木を配布し、平和の尊さを伝えています。

昨年、西東京市のおおぞら公園にも被爆アオギリ二世が植樹されました。



2日目

8月6日 水

day 2

06:00 ホテル発



08:00 広島平和記念式典参列・献花



糟谷

黙祷では、会場全体が静まり返り、命の尊さと平和への願いを全身で感じました。



11:00 昼食休憩



12:00 2つに分かれて平和活動

①グループワーク@広島市文化交流会館

平和記念式典や平和記念資料館見学で感じたことを共有

②本川小学校の見学



糟谷

突然奪われた日常の重さが
伝わり、平和を守る責任を自
分ごととして考えるきっかけ
になりました。



13:30 ヒロシマ平和学習受入プログラム「第1回全国平和学習の集い」
@広島市役所 講堂



17:30 夕食

19:50 ホテル到着

20:00 グループ学習

3日目 8月7日 木

day 3

08:30 集合・出発



08:50 宮島着／厳島神社参拝など



12:15 宮島発

13:15 広島駅着



14:18 広島駅発



19:40 東京駅着・解散

伝える大切さ

今回西東京市の平和大使として広島に行きました。平和記念資料館や原爆ドーム、爆心地などいろいろなところに行き、平和記念式典に参列しました。核兵器の恐怖を実感しながらやはり今回の出発式典で言ったように、後の世代に伝えることが大切だと思いました。

そのことを実感したのは、2日目の広島平和学習プログラム「平和学習の集い」です。プログラムの最初は、被爆体験者の河野キヨ美さんの証言を聞きました。当時、河野さんは広島郊外に住んでいて、2人の姉が市内で被爆され、市内に探しに行くとき、消えた広島の街や恐ろしい死体など、自分の目で見た恐ろしい光景や、感じた辛い思いを伝えてくれました。私はその光景を実際に見たわけではありませんが、河野さんが話すときの表情や言葉から、やはり原爆体験者が語ると、その光景がいきいきと浮かび上がり、さらに恐ろしく感じられると思いました。

一番印象に残ったのはグループディスカッションです。テーマ1では、グループごとに地元で第二次世界大戦中にどのような被害を受けたか、みんなでディスカッションをしました。

福山市では軍事基地が多かったため空襲を大いに受け、8月6日には広島へ救助隊を出したそうです。原爆が落ちた広島市では原爆ドームや資料館などがありますが、原爆がもたらした肉体的な苦しみはもちろん、その後の精神的・心の被害も大きいという意見もありました。原爆が落ちた広島や長崎だけでなく、日本全体での戦争の被害についても知ることができました。

次のテーマでは、「平和でない状態とはどのようなことか」「それをどうしたら解決できるか」についてディスカッションをしました。その中で、戦争がある状態や、核兵器の恐ろしさを知らない状態といった大きな平和でない状態もあれば、最低限の自由を得られない日常やいじめといった身近な平和でない状態も挙げられました。解決策としては、身近にいる人に戦争の恐ろしさを伝える、自分がしっかりと戦争や核兵器のことを知り理解する、自分の地元の被害について知る、などが挙げされました。ここで、平和でない状態をいろいろな形で理解しそれを解決するには一人一人が行動しなければならないと思いました。

私は以前中国に住んでいたため、日本が中国に与えた被害については学んでいましたが日本が受けた被害についてはまだ知りませんでした。今回の平和大使派遣事業で、広島や長崎の原爆被害についてよく知ることができました。原爆の被害だけでなく、物事を学ぶには人との交流といろいろな視点から見ることが大切だと思いました。これからは、広島に行って学んだ知識を活かして、周りの人に伝えたいと思います。

印象に残ったこと

被爆体験者の河野キヨ美さんのいきいきとした証言で、被爆当時の様子や当時の日本の教育、生活を知り、印象に残りました。

また、全国の同世代との discussion で全国いろんなところの被害状況を知り、将来平和への取組を交流することで印象に残りました。



80年目の夏

去年の8月6日、ぼくは家のテレビで広島平和式典の生中継を観ていた。たくさんの人々が訪れ、平和を願う。いつか、献花をしたいという思いがあった。西東京市戦後80周年のチラシを見た時広島に絶対行きたいと思った。でも、選ばれるとは夢にも思っていなかったので、心から嬉しかった。

ぼくたち平和大使は、式典の前日に広島に到着した。周りには大きなビルや賑やかな商店街、道には路面電車がある日と同じように多くの人を乗せて走っている風景が広がっていた。最初に原爆ドームへと向かった。原爆ドームは写真で何回も見たことがあったが、実際に見ると、思っていたより大きく、複雑な気持ちになった。原爆資料館では、原爆の恐ろしさと悲惨を感じ、胸が一杯になつた。僕たちが忘れてはいけないこと、当たり前の日常のありがたさを教えてくれる場所であった。

次の日、平和記念公園で行われた平和式典に出席した。重い空気が漂っているため緊張した。原爆が投下された8時15分の黙とうでは目をつむった瞬間、当時の広島市の様子が目に浮かび、悲しくなつた。広島市長のお話の中にあった「自分より他者の立場を重視する考え方を優先することが大切」というお言葉は、とても印象深かった。武力の前に、他者への思いやり、話し合いが必要だと思う。今回の平和学習で学んだことを、家族、友だち、地域の方々に伝えたい。広島を訪れて本当に良かった。

印象に残ったこと

原爆ドームが印象に残りました。写真で見るよりも上の部分があまり丸くなくて、爆発の熱で変形したのだと感じました。平和記念式典では、広島市長のお言葉が感動しました。



平和大使派遣事業をおえて

私は、二泊三日の平和大使派遣事業へ参加して得たものが沢山あります。

今までも戦争について興味があり、自分で本や資料を見たり都内の平和の記念館や資料館などを休日に行ったりしました。仙台の戦災復興館などに春休みに行き、広島にもいってみたいと強く思うようになりました。

事前学習などを通じて当時のことについて以前よりも深く知ることができました。

実際に広島の資料館へ行って、現物をみたり、爆心地へ行ったりして本当にここで悲惨なことがあったのだと、東京において学んでいる時より実感しました。平和学習の集いで、八月六日は広島に住む学生は学校へ行って平和について学ぶと決まっている、という事を聞いて、他県より平和への思いが強いのかなと思いました。

はじめは、知っている人が一人もいなくて不安だったけど過ごしていく内に班の人とも少しずつ話せるようになれて嬉しかったです。

今回の貴重な経験を忘れずに、周りの人にも平和について共有するべきだと思いました。

印象に残ったこと

平和記念資料館で見たワンピースが血まみれになっていたが、洗うとボロボロになってしまったため、あえて当時のまま父親が残していたことが印象に残りました。

平和記念式典で小学生がハキハキと堂々と話していたことも印象に残りました。



広島へ行って

私は広島に平和大使としていきましたがとても暑い中だったので、あまり頭が働きませんでしたが、実際に日本に原子爆弾が落とされて、たくさんの命を失ったことは伝えなくてはいけないと思いました。

私のおじいちゃんは亡くなりましたが長崎に住んでいたのでひばくしています。おじいちゃんは原爆の話をしてくれなかつたので広島の旅に参加できてよかったです。

資料館の休憩室で食べたソフトクリームがめちゃめちゃおいしかったです。他にもいろいろなところに行ってたくさん学べました。ありがとうございました。



印象に残ったこと

平和記念資料館で服がやぶけているところにほんのり赤色がついて、血がべったりついてたんだなと分かって強く印象に残りました。

2日目は、市役所で色々な人と話し合えたことが印象に残りました。色々な人の考えをきいて理解が深まりました。いろいろなのしく話せました。



被爆体験者の話を聞いて

僕は今回の派遣事業において様々なことを見て、聞いて学びましたが、その中でも僕が一番印象に強く頭の中にあることがあります。それは原爆が落ちた次の日に姉を探しに広島に入った河野さんの話です。河野さんが広島に向かう途中ですれ違った髪はチリチリでやけこげたうつろな表情をした人々のことを「同じ人間には見えない」という表現をしていましたのがとても印象的でした。

続いてホンジュラスという国の外交官に河野さん自身の経験をお話しし、その後にホンジュラスが核兵器禁止条約を批准したことととても喜ばしく話しているのを聞いて河野さんが平和な世の中を願っているのが伝わりました。

今回の広島派遣事業では戦争の悲惨さ、今までの日常が簡単に奪われてしまうことを知ることができました。今回聞いたこと話したことそして感じた事を周りの人々に伝えることと平和についてもっと深く考えなければいけないのが今の日本を生きる僕の責務だと思いました。

印象に残ったこと

平和記念式典の時に小学生が「原爆が投下されたあの日のことを思い浮かべたことはありますか」という問いかけから始まり一人の声でも思いをのせて伝えれば変化をもたらすことができるという話が自分には響きました。

小学生も平和について考えているので僕も考えなければならぬという気持ちになりました。



平和大使として派遣された意味

私は西東京市の平和大使になり、事前学習では戦争の歴史を学んでこれから平和について考えを広げてきました。そして今回は原爆が投下されてから80年がたつ広島へ行き、そこでしか感じられない悲惨な痛みや被爆者の思いを身に染めてきました。調べてることよりも聞いたり体験したりする方が印象深く平和大使として行くことができて良い経験になったと思います。

私が特に印象に残ったことは、平和学習の集いで聞いた河野さんのお話です。河野さんは原爆伝承者である94歳の方で「次は若い方が核兵器の悲惨さを伝えてほしい」とおっしゃっていました。被爆者は高齢化に伴い減少傾向にあるそうです。私はこの現状を知ってもっと多くの人々に広島の原爆を伝えたい。そして河野さんの言葉を継承したいと思いました。また、これから未来の平和を守るために一人一人が核兵器の危険性を理解しなければならないと思います。

私たちが平和大使として派遣された意味は広島の原爆を学ぶことだけではなく、より多くの人々に学んだことを伝え、被爆者の思いを継承するためだったのではないかと考えました。

広島で行うことができた貴重な経験を私の人生で生かし、今を平和だと感じられる瞬間を大切にしていきたいです。

印象に残ったこと

式典の歌が印象に残りました。今の日本が平和だから歌が歌えていると思うと感慨深いなど感じました。

また、みんなで黙祷の意味について考える時、私はその被害にあった人を想う時間だと考えました。たくさん人の意見を聞いて理解を深めることができました。



被爆者の心を受け継ぐ…

私はこの広島の平和大使派遣事業で多くのことを学びました。

私は広島の原爆 80 年の時がたち爆撃を体験した人々は平均 80 歳以上だと聞きました。私たち平和大使を通じて違う県の人々が訪れその人の話を聞くことができとても心に残りました。その話の中で戦争をなくすためには原爆をこの世界からなくすことと考えて、私はそのことをつげようと思いました。

話の中では目がドロドロにとけ人とは思えないとおっしゃっており、被爆者の人達は自分が思っているよりひどい死に方をしていた。そして平和記念資料館では戦争の直後は、なによりそのうけた苦しみから逃れるために自害したものも多かったと見て知りました。

それに比べてこの世の中は平和で戦争は遠い言葉だと思います。私は今回の活動から実感した被爆者の人達の苦しみや被害、そしてそれを受け継いでゆく意志をこの田無や各地に伝えていきたいと思います。

印象に残ったこと

平和記念資料館の資料では多くの苦しみや痛みが描いてありました。その中でも原爆で苦しむ人はそれに耐えきれずに自殺行為をすることがあるそうです。原爆で人が死んでいったことではなくその苦しみから逃れるように同じように苦しんで死んでいくことが人に大きなダメージをあたえるのだと思いました。



広島平和記念資料館 所蔵
三輪車（鍊谷 信夫さん寄贈）



戦後 80 年の広島へ行って

私が広島に行ってみて思ったことは、80 年前のその場にいないというのになぜかその戦時中にいるような感じでした。

平和記念資料館ではけっこう残酷な絵などが兄からたくさんあるということは広島へ行く前から聞いていたのですが実際にやってみて、兵士の服がそのまま残されていたり被ばくした小さい子どもの三輪車が残されていたり、血液の付いたワンピースがあつたりして世界はこんな状態だったのかと思ってしまって少しでも自分がその場にいたらどうなってしまっていたんだろうと考えてしまって胸が苦しくなりました。

次の日の平和記念式典では内閣総理大臣がくるほどの重要な式典で特に印象に残ったことは自分より年の下な小学生がえらい人がたくさんいる中、台本も何も見ずに発表していて自分より年下の子がこんなことができる人だととても深く感心して自分も負けないようにしないと、と努力してみようと思いました。

印象に残ったこと

平和記念資料館では、80 年前の物がそのままの状態で保存されていたことが印象に残りました。

80 年前の実物を見ることで被爆者がいなくてもその時の状態を語ってくれていて、これからどうするべきかを考えさせてくれました。



広島平和記念資料館 所蔵
弁当箱（竹田 俊二さん、竹田 昭義さん寄贈）



平和大使派遣事業を終えて

私は今回の平和大使派遣事業を通して、原爆ドームや資料館を見学したり、平和記念式典や、全国の同世代の人たちと交流したりする中で、平和について改めて深く考えるきっかけになりました。

中でも特に心に残っているのは、被爆者の方のお話を直接聞いたことです。私は今回初めて実際に被爆した方のお話を直接聞きました。そして、経験した人にしか分からないし、伝えられない言葉の重みを感じ、学校で習ってきたことや資料館の展示から受けた恐ろしさよりも、はるかに強い原爆の悲惨さや衝撃を受けました。また直接お話を聞くことで、原爆を身近に感じることができて戦争や原爆は遠い過去の出来事ではなく、今なお多くの人の心と体に影響を残しているのだなと実感しました。

同世代との交流会では、他県の学生たちと平和について語り合う時間があり、みんなで考えたことで私一人では思いつかない意見がたくさん出て来て、視野が広がった気がしました。

この広島での体験は、私が平和について考えるために、とても大切で貴重なものになりました。平和の大切さを実感した今、まずは身近な家族や友達にこの体験を伝えていきたいです。

そして、被爆者の方々の想いを受け継ぐ一人として、自分にできることを少しづつ行動に移していくこうと思います。

印象に残ったこと

平和学習の集いでは、実際に原爆を体験した方のお話を初めて直接聞くことができて、今までの資料館などを含めた学習の何倍も、原爆の怖さやそこにいた人の恐怖を理解することができました。そして、私たちが広島に来た意味やこれから何をしていけばいいのかということがより分かった気がしました。



忘れられない 3 日間

私はこの 3 日間を通して、戦争の悲惨さや人の命の大切さを感じ、今の平和な生活がどれほど幸せなのかを感じました。

初日に行った原爆ドームや資料館では、実際に被爆した物を近くで見ることができたり、当時の町や人の様子を絵や写真で見ることができました。リアルな絵や写真はとてもショックでトラウマになりそうな位の恐怖を感じました。また、死没者の言葉が展示されている場所では愛する人への遺言のような言葉や、親や家族への感謝の言葉が残っていて、読みながら心がぎゅっと痛くなってしまってしばらく動けなくなりました。

2 日目の平和記念式典への参加は、何よりの貴重な経験になりました。朝、集合したときは寝起きでぼんやりしていましたが、会場が近づくと、警備員の数が増えたり身体検査や荷物検査が何度もあり、厳重な雰囲気に気が引きしました。式典が始まり、8 時 15 分が近づくにつれて 1 日目に資料館で見たものが頭に浮かんで怖くなっていました。とても暑くて、手持ちの扇風機の風も生温かく感じながら、8 時 14 分と 8 時 15 分の全く違う景色を見た人は何を考えたのだろうと思いました。

何が起きたのか理解できなかったかもしれないし、目の前の現実を受け入れるまでに時間もかかったのではないか、とも思いました。

「どんな時に平和を感じる？」今回の事業に参加する時のプロフィールに書くこの質問に、私は「友達や家族と話している時」と書きました。この 3 日間、私はたくさんの事を見たり聞いたりしたけど、80 年が経過して伝えてくれる人が少なくなっている現実も感じました。伝える人が居なくなって忘れられる様な事になったら、まちがいをまちがいと思わず、誤った選択をしてしまう事もあるかもしれないと思うと、伝わらなくなる事の怖さも感じました。私 1 人ができる事は少ないですが今回の経験に感謝しながら過去の事実を伝え続けられる人になりたいと思いました。

印象に残ったこと

本川小学校では、目の前に被爆した物の展示にふれられたりすぐ近くでみれたりできて五感で感じられることができる場所でした。

被爆者の方のお話では、聞いているだけで鳥肌になるような悲惨さでよくお話をしてくれたなと自分じゃ絶対できないような事をやっていて本当にありがたいな、と思いました。



広島平和記念資料館

広島平和記念資料館では主に被爆した人たちの当時の心情を絵や写真を見て感じました。当時の人達が描いたまさに地獄のような絵を見て感じたことです。肌が熱でただれ落ちた人々や放射線の影響で体が変形して色がむらさき、青、赤になった鬼のような見た目の人々などショッキングな絵が多くありました。あまり上手とはいえない絵でしたが、一目見るだけでその当時の心情がすぐにわかりました。「悲しい」や「こわい」などの言葉では表せない程の絵で衝撃を受けました。当時の被爆者の方々が描いた絵をみて、教科書やパソコンで調べただけではわからない被爆者の気持ちを想像することができました。

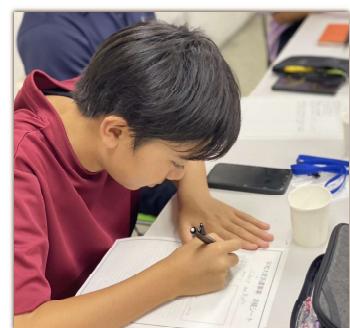
また写真の展示ではリアルな光景が映し出されていました。正直、吐き気を催すほどの写真も多くありましたが、それによって当時の状況の惨さを感じる事ができました。

これらの展示を通して原爆の恐ろしさを感じると共に、2度とこの惨劇を繰り返さないようにしようと思う気持ちが芽生えました。

印象に残ったこと

平和学習の集いでは、地域ごとに第二次世界大戦中にいろいろな被害を受けていると知りました。

河野さんのお話で実際に被爆者の方に話を聞くのは貴重な話としてとらえました。原爆がおちたときの表現が印象に残りました。



広島派遣を通して

今回、平和大使派遣事業として広島を訪れる貴重な機会をいただいた私はこれまで教科書や映像でしか広島の原爆被害を学んだことがなかったが、実際に現地を訪れ、被爆地の空気を感じることで、平和の尊さを改めて深く心に刻むことができました。

まず参加した平和記念式典では、黙祷の時間に会場全体が静寂に包まれ、原爆で亡くなった多くの方々に思いを馳せることができました。広島市長や子ども代表の平和への誓いの言葉を聞き、戦争の悲惨さを伝え続けることの大切さを強く感じました。世界中から人々が集まり、国や世代を超えて「平和を願う心」でつながっていることに大きな希望を持ちました。

次に訪れた平和記念資料館では、被爆直後の写真や、焼け焦げた衣服、壊れた日用品などを目の当たりにしました。特に、当時子どもが着ていた服や弁当箱が展示されていたことが強く心に残っています。そこには確かに「生きていた人の生活」があったことを実感し戦争が一瞬にして日常を奪い去る恐ろしさを痛感しました。また、放射線の影響で長く苦しんだ人々の証言も読み、原爆が一度きりの爆発ではなく、その後も多くの人々を苦しめ続けたことを学びました。

原爆ドームを実際に目にした時、写真で見てきたものとは全く違う重みを感じました。焼け残った建物が無言で訴えかけてくるよう、あの日の惨状を現在に伝え続ける「生き証人」のように思いました。周囲には緑豊かな公園や川の流れがあり、その平和な風景とドームの姿の対比が、戦争の記憶を風化させてはならないという強い思いを呼び起しました。

本川小学校を訪れた際には、当時の子どもたちがどれほどの犠牲になったかを知りました。授業中に被爆し、多くの児童が命を落としたという事実に胸が痛みました。子どもであっても戦争の犠牲から逃れることはできず、むしろ未来を担う世代が多く奪われたことに深い悲しみを覚えました。同時に、現在この学校に通う児童たちが平和学習を続け、世界に発信している姿に強い希望を感じました。

今回の広島訪問を通じて、戦争の悲惨さと平和の尊さを体で感じ取ることができ、平和は当たり前にあるものではなく、多くの犠牲と努力の上に成り立っていることを忘れてはならないと感じました。私はこの経験を自分だけのものにせず、周囲の人々にも伝えていきたいです。そして、未来を生きる世代の一人として、戦争のない世界を築くために自分にできることを考え続けたいです。

印象に残ったこと

原爆ドームの崩れた鉄骨やむき出しの壁から、原爆の破壊力と当時の惨状がリアルに伝わってきました。

資料館では、被爆後の遺品などが展示されており、命の重さや苦しみが心に深く残りました。平和の大切さを強く実感できました。





平和大使発表会

令和7年9月14日（日曜日）タクトホームこもれびGRAFAREホールにて、平和大使発表会を開催しました。平和大使発表会は、9月14日、15日に開催した平和映画祭のプログラムの一部として行われ、当日は400人を超える多くの方々にご来場いただきました。



「見て、聞いて、考えたこと」「自分たちにとって平和とは？」
「被爆者の講話を聞いて、若者と交流して考えたこと」
平和大使たちの集大成を、3つのグループに分かれて発表しました。



事前学習で学んだこと・西東京市であった戦争

スライド資料



中学2年生の印開心です。

今回は、戦時中の広島を知りたいと思い、平和大使に応募しました。



今も、田無駅の北口に立っているリングですが、実は深い歴史があったことをご存じですか？

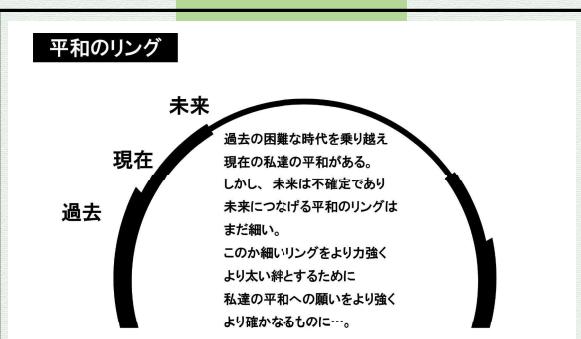
それは80年前の戦時中です。1945年（昭和20年）4月12日、この日1機のB-29爆撃機が現在の田無駅北口に当時最大級の普通爆弾1トン爆弾が投下されました。不幸なことに、この破壊力巨大な爆弾は避難している人々がいる防空壕に落ち、30名以上が亡くなりました。私はこのことを聞いてすごく驚きました。この「普通」、少なくとも原爆よりは、はるかに威力は小さい爆弾により、こんなに多くの方が犠牲になったのは衝撃です。

1996年（平成8年）3月に、当時の悲惨な事実を伝え残し、一人一人が平和を支える担い手となることを願い、現在田無駅北口にもある「平和のリング」が設置されました。

お気づきの方もいらっしゃると思いますが、この平和のリングは太さが3段階に分かれています。一番太いのが過去、現在、そして未来を象徴しています。だんだん細くなっているのは、人々の戦争の記憶が徐々に薄れることを表しています。リングのデザインに込められた想いがリングに併設されている解説板に書いてあるので、ぜひ見てみてください。

私自身も今ここにみなさまに戦争の話を伝えていますが、こうした伝えが、平和のリングの「未来」という部分が消えない力となります。みなさまもぜひ周りの人々に話してみませんか？

今も毎回、平和のリングの傍を通るときに、平和のリングを見ると80年前の戦争のことを思い出し、その悲惨を目にしたようです。今日この平和のリングの由来・意味を伝えたい理由は、身近にあるもので、このように深い歴史があると自分も驚き、みなさまにもこの歴史を知り、考えてもらいたいからです。みなさまも、ぜひ考えてみてください。





中学3年生の松崎謙信です。

僕がこの戦後80周年平和大使派遣事業に参加した理由は、広島に落ちた原爆をもっと深く知りたかったからです。

▼



僕は、模擬原子爆弾と中島飛行機への爆撃について発表します。模擬原子爆弾（パンプキン爆弾）は、爆弾を落とす予定の場所に試験的に落としたり、爆弾を落としたらすぐ逃げられるように練習としてつくられました。模擬原子爆弾は、日本全国で49か所落とされ400名以上が亡くなり、1200名以上が負傷しました。西東京市では3名亡くなりました。

次は西東京市への爆撃について発表します。

当時の武蔵野市にあった中島飛行機の武蔵製作所を第一目標にした爆撃が行われました。武蔵製作所では、エンジンを作っていて格好の標的でした。爆撃は何度も行われ、そのうち4月2日の爆撃は夜間に行われ、照明弾と時限爆弾が使用され、時限爆弾は、数分で爆発したり、数日で爆発したりと、救護活動の妨害などが理由だったそうです。

長崎に落とされた模擬原子爆弾が落とされたことと、中島飛行機への爆撃の被害が西東京市にもあったことを知ってとても驚きました。ぼくがもしその場所にいて、空を見上げた時、爆撃機がたくさん飛んでいたら、とても怖いし、当時、その場にいた人もそうだったと思います。だからこそ二度と戦争は起こしてはならないと思います。



高校2年生の玉井花音です。

以前から平和や戦争について興味があり、広島の原爆ドームや平和記念資料館に行きたいと思っていたので応募しました。



▼



校庭で友達を焼いた日



私は事前学習会で学んだことを発表します。

事前学習会で高校一年生の女の予達が教員の指導のもとで、校庭に穴を掘り、その穴に亡くなつた下級生を入れて火をつけて焼いている絵を見て、衝撃を受けました。自分が高校2年生なので、もし自分がこの女の子の立場だったらと考えると、下級生の遺体をみることもできるか分からずと思いました。

焼いている時に、内臓が破裂する音や、手足を焼いていることによって動いていた、という事を知り、当時の高校生は我慢強いなと思いました。

自分がこのような事をしろと言われたら逃げ出しちゃうくなると思ったけど、当時の人たちはしっかり見届けてお骨にして親族の方に渡そうとして役割を全うされていてすごいな、と思いました。



古賀 海宇さん



あなたが当時のカメラマンだったら…

この瞬間、シャッターを切ることができますか



中学2年生の古賀海宇です。

私は、被爆したカメラマンについて学びました。

その方は、明け方に自宅に帰ったところで被爆し、御幸橋へ向かいました。そこには、沢山の人がいましたが、そのほとんどの人がひどい火傷を負って皮膚がボロボロになり、苦しんでいる人が沢山いました。その中にはもうすでに息絶えている人もいたでしょう。

そのカメラマンはカメラを構えましたが、長い間シャッターを切れずにいました。目の前の人々の苦しむ声が響き渡る中、シャッターを切ることは難しかったのです。それでも、悲惨なこの光景を写真におさめて伝えていくために、シャッターを切り、写真を撮りました。

もし私がこのカメラマンだったとしても、シャッターを切るのをためらってしまうと思います。そんなに悲惨な光景を前にして、私は正気ではいられないと思います。なので、この人がシャッターを切れたのはとても勇気のある行動だったと思います。その人おかげで、写真で伝えていくことができているのです。

また、普通の生活では戦争に関わることは少ないので、このような活動に参加していろいろ学ぶことができて良かったと思えました。



テーマ 1

Group C

テーマ 2

テーマ 3

広島で見て、聞いて、考えたこと



高校一年生の小川真葉です。

わたしが平和大使派遣事業に参加した理由は、私自身被爆者3世なのですが、あまり原爆のことを知らなかったので、もっと詳しく知りたいと思ったからです。



左：広島平和記念資料館 所蔵 三輪車（鍊谷 信夫さん寄贈）
右：広島平和記念資料館 所蔵 ワンピース（寺尾 寛さん寄贈）

私は、平和記念資料館で学んだことについて発表します。

実際にやってみて、最初に驚いたことは日本人以外の様々な人がたくさん来ていたことです。日本が世界で唯一の被爆国として、世界中から注目されているということがよくわかりました。

資料館では、被爆した時のお弁当や子供の三輪車、洋服などの遺品が当時のまま残されていて、原爆の威力や悲惨を感じました。また、被爆をして怪我をされた方の写真や原爆投下後の人々の様々な様子が書かれた絵などが展示されており、怖さが伝わってきました。その他にも原爆が投下される前の広島と、投下された後の広島の変化が写真や文章で書かれていて、原爆が広島に暮らす人たちに計り知れないほどの大きな影響を与えたのだとわかりました。

私は、実際に広島に行くまで、原爆は遠い昔のことのように思っている部分がありました。しかし、実際に広島や資料館に行って様々な展示を見たことで、今でも心身ともに苦しめられている人がいることや、辛い思いをしている人がいるということが分かり、原爆を昔の出来事として終わらせてはいけない、と強く思いました。

そして、私も自分の周りの人たちに原爆のことを伝えたいと思いました。



長野 百笑さん

中学2年生の長野百笑です。

私は、平和の大切さを、もう一度感じて学び直したいと思って応募しました。



私は原爆ドームと平和記念公園について感じたことを話します。まず、皆さん原爆ドームが原爆の被害を受ける前の姿を知っていますか？今の原爆ドームはもとの姿よりも小さくなっていたり骨組みが見えていたりと、元の姿の原型は少し残しているけれどがれきだらけで元の姿を感じにくい姿になっています。原爆ドームは平和のシンボルとして世界遺産に登録されています。この世界遺産の登録は、平和を愛する人たちの思いや、世界中の人の平和を願う思いがより世界の人に伝わる一歩を進めた出来事だと思いました。平和を願い続け、平和を誓い、平和について考え、平和を続けることの大切さを教えてくれるような場所だと実際に行ってみて感じました。

また、平和記念公園へも行き、平和の灯への思いが印象に残りました。この灯は地球上から核兵器がなくなるまで燃やし続けるという思いが込められていて、平和への思いがより強く感じができるものでした。

平和大使として学んだことはどれも貴重なことばかりでした。私自身も平和について改めて学ぶ良い機会になりました。平和な世界になったら、被爆をしてしまった人の思いが果たされることにもつながるのではないかでしょうか。皆さんこの機会にもう一度、平和について考えてみませんか？

中学1年生の裏田昂大です。

僕は広島に実際にやって来て、平和記念式典に参列したいと思い、平和大使派遣事業に応募しました。

次は、平和記念式典について発表します。

私が式典で一番心に残ったことは、小学生の言葉「one voice」です。「one voice」にはこの悲惨な歴史を繰り返さないために、一言でも良いから後世に伝えていこうという意味だと自分は感じました。

そして、そのまま式典は進み、「平和の鐘」がなり、黙とうを捧げる時間になりました。みなさんは、黙とうの意味を知っていますか？黙とうを捧げる時には、実際にこの地で原子爆弾が落とされたと思い、80年前の実際の景色を想像しました。想像して80年前の人たちの気分になった気がしました。こうやって被爆者の気持ちを感じることが黙とうの意味だと思います。

また、献花をする慰靈碑にはこのような文字が書かれています。

「安らかに眠ってください。過ちは繰り返しませんから」

これは戦争をせず、平和を願う言葉です。

この言葉の通り、僕は平和を願い続けていきたいと思います。



高校2年生の糟谷和海です。

次は、本川小学校についてお話しします。

本川小学校は原爆が投下された爆心地からわずか350mのところにあり、校舎は壊れ、約400名の命が一瞬にして失われました。被爆後は臨時救護所として使われ、たくさんの怪我人が運ばれてきたそうです。

資料館の中には当時の写真や遺品、児童や先生の証言などが展示されていました。その1つを見ると原爆がどれほど突然に普通の子供たちの日常を奪ったのか伝わってきて、とても胸が痛みました。

私はそこで戦争や原爆は決して過去の出来事ではなく、私たちがこれから未来をどう生きるかに深く関わっていると感じました。

平和な日常は当たり前ではなく、多くの犠牲の上に成り立っているということを忘れずに、これから的生活の中で一人一人が平和のためにできることを考えていきたいです。



テーマ 1

テーマ 2

Group B

テーマ 3

被爆者の講話を聞いて・若者と交流して考えたこと



高校 2 年生の麓幸太郎です。

僕たち平和大使は 8 月 6 日に行われた、広島平和記念式典の後に全国平和学習の集いという広島市役所で行われた学習会に参加してきました。この学習会では全国から広島に学びに来た中高生が入市被爆された河野キヨ美さんのお話を聞き、その後、全国から集まった中高生の間でそれぞれの地域では戦争中どのような被害があったか、平和とはどのような状態であるかというのを話し合いました。



僕はこの学習会で一番印象に残っている河野キヨ美さんの話をします。河野さんは、広島から少し離れたところに住んでいて、原爆が投下された次の日に姉を探すため、広島に行きました。河野さんが田んぼ道を歩いていると逆に広島の方から逃げてくる人に出会いました。その人たちはさまよいながら歩き、髪はチリチリで焼け焦げていて虚ろな表情をされていたそうです。その人のことを河野さんは同じ人間には見えないと表現されていて、広島に行った 3 日間の間で一番驚き、心を打たれる衝撃を受けました。

私は、普段の生活の中で他の人を「同じ人間には見えない」という表現は今も昔も言うことも聞くことも全くないので、それだけ広島の原爆の被害の大きさを表す表現だと思いました。

その後に、河野さんがホンジュラスという国の外交官に自身の被爆体験を話した後、ホンジュラスが核兵器禁止条約を批准したという話を喜ばしく話しているのを聞いて、被爆体験を伝え続けていくのはとても大切なことだと思ったと同時に、僕自身も平和について考え続け伝えていくのが僕のやるべきことだと思いました。



中学 3 年生の四方和華です。

私は、広島の原爆でどのようなことが起きていたのか、被爆者の方から直接お話を聞きたいと思い、参加しました。

私は、先日被爆伝承者である河野キヨ美さんから、広島の原爆についてお話を伺いました。

キヨ美さんは当時、爆心地から 35 キロメートルも離れた場所にいらっしゃったそうです。しかし、その距離にもかかわらず、「雷が 10 個も 20 個も一度に落ちたような大きな爆発音が響いた」と、語ってくださいました。その言葉を聞いた時、原爆の威力がどれほど凄まじいものだったのか、想像することができました。





また、キヨ美さんは、「次はあなたたちが、核兵器の恐ろしさを伝えてほしい」と何度も繰り返しておっしゃっていました。その言葉を聞いて、私は河野さんの思いをしっかりと受け止めて、次の世代へ伝えていく責任があるのだと強く感じました。そして、私が広島に派遣された意味を、そこで初めて理解できたと思います。

キヨ美さんは、原爆の悲惨さを子供たちに伝えるために、自ら絵本も書かれています。原爆で亡くなった人々や、キヨ美さん自身の体験談を絵と言葉に託して伝えていると聞き、私はとても感動しました。恐ろしい体験を語り継ぐのは決して簡単なことではないと思います。それでも勇気をもって伝え続けてくださる姿に、私は深い尊敬の気持ちを抱きました。

原爆投下から 80 年経ち、被爆者や伝承者の方々は高齢化に伴って減少傾向にあるそうです。だから、私たち若い世代が率先して、原爆の悲惨さや戦争の恐ろしさを伝えていかねばなりません。

私はこれからの中の未来の平和を守るために、一人一人が核兵器の危険性を正しく理解することが大切だと思います。そして河野キヨ美さんからいただいた貴重なお話を、自分の人生の中で生かし、平和である今この瞬間を大切にしていきたいです。



中学2年生の川島美空です。

私は平和大使派遣事業で広島に行きました。そこでは中高生との交流をして争いがどうすればなくなるかについて考えてきました。

中高生との交流では争いがない安心できる世界を作るためには何からなくせば良いのかを中心に話しました。

私たちはまず、今住んでいる市が戦争中、どのような被害を受けたのかを話し合いました。私が住む西東京市ではパンプキン爆弾が落とされており、同様の被害があった水戸市と日立市は 1000 人以上の被害者がいました。まとめた時に気づいたことはどの県でも投下した場所は軍事工場が多かったです。

そして、もう一度悲劇を繰り返さないために争いをなくすためにどうすればいいのかを考え、中でも多かった意見は差別をなくし思いやりを一人一人持つことです。

黒人差別をしている。貧困である。この問題に対して、私たちは日常のいじめや差別を少しでも減らし、相手の思いをひたすら聞く話をすることを、心がけていきたいです。





世界では差別貧困が平和ではない状態だけれど、身近な犯罪いじめなどの問題を変えようとする小さな意識で戦争をなくすきっかけとなることがわかりました。

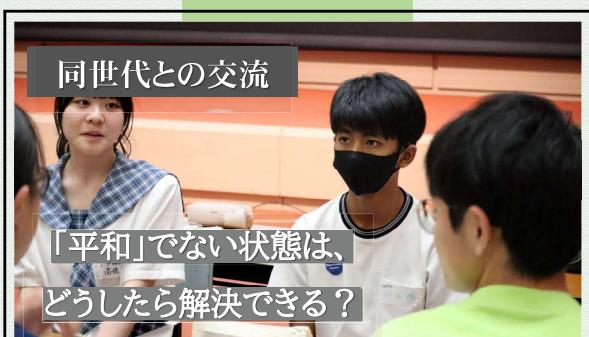
戦争についてもう一度考えてみてはどうでしょうか？



ヘインティツ アウンさん

中学2年生のヘインティツ アウンです。

私は平和大使派遣事業に行き、平和学習の集いに参加しました。そこで、私たちは80年前の広島のことや東京のことを中高生と交流しました。



同世代との交流

「平和」でない状態は、
どうしたら解決できる？

そこで、私が気づいたのは、他の地域の中高生と似ている考え方であれば、少し違う考え方を持っていることがわかりました。私たちはまず80年前に各地で何が起こったのかを話し合いました。

グループには、広島、鹿児島、新潟、茨城、東京、埼玉の方がいました。私は平和大使派遣事業に行く前までは、広島、長崎、東京などしか空襲の被害を受けていないんじゃないかと思っていたが、私が思っていた何倍も被害を受けていて心が痛みました。次に現在の国の問題について話し合い、世界ではウクライナやミャンマー、アフガニスタンなどたくさんの地域で戦争や紛争が起きていますが、解決策についても話し合いました。

例えば、武力で解決するのではなく、話し合いで解決したら戦争なんて起きませんし、そもそも1人1人が仲良くしていたら、一生平和が続くんじゃないのかと思いました。そして80年前のことを忘れないように私は友人や身近な大人たちに、今の生活が普通ではない時代があったのだと伝えたいと心から思いました。





平和大使保護者の声

今まで戦争や、平和について深く学んだり考えたりすることがなかったが、学習会や実際に広島へ行き多くを体験することで、自分の言葉で戦争や平和について語ることが出来るようになりました。

人見知りレベルが低くなった気がします。自分の事だけでなく、周りをよく見て自分から声をかけたり、何か出来る事はないか考えているようです。

また、平和事業については、世界で起きている紛争等のニュースがテレビで流れる上、何でこんなことするの？お互いどうしたいの？どうすれば終わるの？等の質問をするようになりました。

自分のことを自分で判断しようとする姿が増えたように思います。以前は「どうしたらいい？」とすぐ聞いていたのですが、自分で答えを出そうとしています。自立心が芽生えてきたことがとても嬉しいです。

自ら人前に出て話すのが得意な方ではなかったが、今回のこの活動を通して堂々として、自信を持って自分の言葉を発することができるようになったと思います。

もともと歴史が好きではありました、今回参加するにあたって事前・事後学習に熱心に取り組んだり、家庭でもいつも以上にたくさん話をしてくれていました。

学校の教科書や授業で習うのは戦争があったという事実だけで、当時の一般市民が苦しんだ惨状を知ることはあまりなかったので、そこからなぜ戦争をしてはいけないのかを学び取れたのではないかと思います。

大変貴重な経験をさせていただきありがとうございました。子どもがこの事業に参加することで、保護者も日本の戦前・戦中・戦後の歴史に興味を持ち、改めて振り返る機会になりました。

知っているお友達が1人も居ないからこそ、皆で快適に過ごせるように考えたり、お互いの事を知ろうとしていたようで、今回の事業に参加した後、明らかに周りを意識する言動が増えています。平和に対する理解を深めただけでなく、普段の生活でも大きな成長を感じています。

市長をはじめ職員の方々やスタッフの方々にも大変お世話になり、とても感謝しております。本当にありがとうございました。

またこのような機会があれば是非参加させていただきたいです。

非核・平和都市宣言

わたし　い
私たち生きている。

ひとびと　しゅうかん　しゅうきょう
おおくの人々が、それぞれの習慣や宗教をもち
さまざま　かんが　かた　こと　かんきょう　もど　せいかつ
様々な考え方と、異なる環境の下で生活している
ちきゅう
この地球で

わたし　も
私たち持っている。

ちきゅうじょう　けんこう　しあわ　せいかつ　けんり
この地球上で、健康で幸せな生活をする権利を
こと　かんが　かた　ひとびと　さべつ　ぎむ
異なる考え方の人々を差別しない義務を

わたし　し
私たち知っている。

ひとびと　いま　せんそう　きず　いのち　うしな
おおくの人々が、今なお戦争で傷つき命を失っていることを
す　へいわ　せいかつ　ば　お　う
住みなれた平和な生活の場を追われて飢えていることを

わたし　うった
私たち訴える。

ひとつ　えがお　はな　あ
必要なのは笑顔での話し合いであることを
ひとつ　じんるいあい　おも
必要なのは人類愛と思いやりであることを

わたし　せんげん
私たち宣言する。

ひと　きず　じらい　ぶき
あらゆる人を傷つける地雷や武器をなくすことを
はめつ　まね　かくへいき
あらゆるもの破滅を招く核兵器をなくすことを
ちきゅうじょう　せんそう
地球上から戦争をなくすことを

わたし　しみん　こえ　ねが
私たち市民のこの声と願いを

せかい　ひろ　うった
世界に広く訴えるために
ひかく　へいわとし　にしどうきょうし
非核・平和都市 西東京市の
せんげん
宣言とする。

平成14年1月21日
西 東 京 市



令和7年11月

編集・発行：西東京市生活文化スポーツ部 協働コミュニティ課

西東京市南町5-6-13

電話 042-420-2821（直通）

協力：未来に平和をつなぐプロジェクト

制作：Studio.mofe